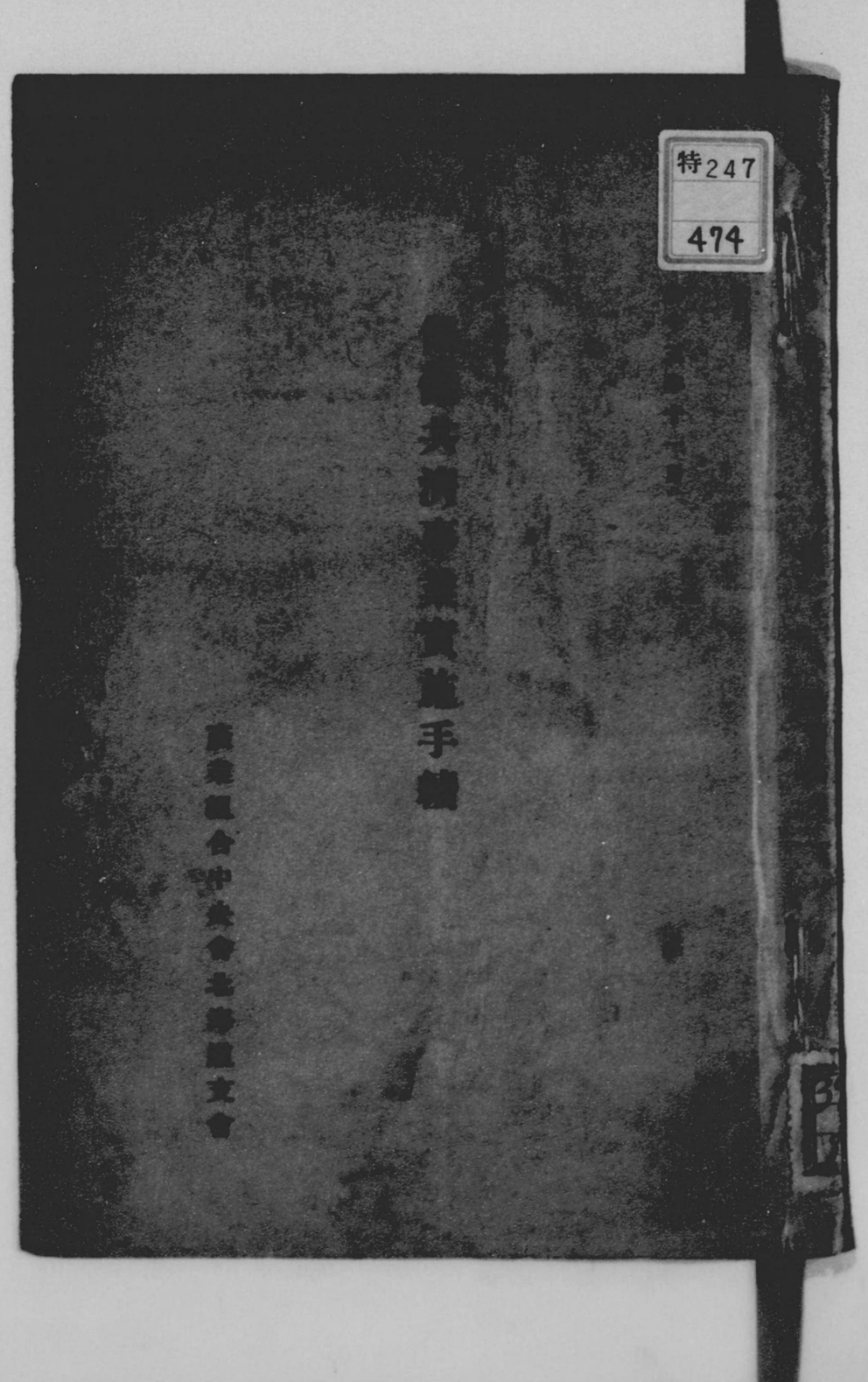


0035608000

0035608-000

特２４７－４７４

保健共済事業実施手続

産業組合中央会北海道支会

昭和１３

AGD

特247
474

保健共濟事業實施手續

昭和十三年十一月

産業組合中央會北海道支會

特247
474

目次

緒言
一、實施ノ順序
1.定款變更 2.定款變更認可申請添付書類
二、基本調査
1.調査様式 2.調査委員囑託 3.調査打合會 4.調査實績ト給付ノ基礎
三、給付
診療費半額上給付基礎額 2.療養給付ノ程度及方法 3.助産費給付基礎額 4.葬祭費給付基礎額
四、事業計畫書
1.事業計畫書記載例 2.保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書類 3.事業及收支ニ關スル書類 4.醫療施設ノ内容ヲ記載シタル書類 5.收支豫算ノ例
五、保健美濟規程例
六、給付規程例
七、醫療機關ノ契約
イ、契約書例 ロ、診療取扱方針
八、事業開始
附錄
1.事務様式
2.農村保健運動必行事項

緒言

長期戰時體制下の農山漁村の生活安定と生産力擴充のために、更に直接的には強大なる兵力補給の點からも、國民健康の增强と體力の向上の問題は統後の國家的施設として重大なことは國民の齊しく痛感する處である。

産業組合關係者は斯る戰時は認識を一應外にしても、從來より大衆の生活安定と農村文化の向上の觀點から、療養の合理化運動、醫藥、保健榮養品の普及或は豫防衞生施設の徹底等に、産業組合自ら之に當るもの、或は共濟施設醫療利用組合等の組織的な施設によつて行ふもの等夙に産業組合活動の分野として努力し來つた處である。然るに現下の狀態は之等の國民保健施設の普及徹底の必要は、平時の必要性の上に更に戰時的要求、長期建設に對應する人力總動員の爲の慾求等一枚も二枚も加はつて居るのである。

以上は國家的要求や國民生活の側からの必要性であるが、之を組合經營或は組合員の訓練の側から考へても、一般産業組合の仕事の眞精神を組合員に理解させる爲に欠くべからざる施設で、特に醫療利用組合の經營に當つては經營財政の堅實性を保持する爲めと聯合會經營の組合醫療に欠けて居る各産業組合と組合員との接觸を密接ならしめる爲めに保健共濟施設を各産業組合が持たねばならぬことは、多數醫組の經營實蹟が立證する處である。

本會は曩に本運動の普及のために産業組合の行ふ保健共濟事業なるパンフレットを配布し、其の組織を奬勵する處あつたが、本年より國民健康保險組合法も實施さるゝに至り、同法の普及と産業組合の代行問題、更に續々設立を見んとする醫療組合の健全なる發達のため、醫組の經營と不可欠の關係を持つ保健共濟施設の普及を圖るために、前回發行のものに改訂を加へ印刷配布する次第である。

然して今直ちに共濟施設を實施せざる組合に於ても、産業組合が保健運動を實施すべきことは、共濟施設や醫療利用組合を行ふと行はざるとに拘らず必要なのであつて、各産業組合の實力に相應する組合員の保健施設を計畫的に實施すべきであるし且つ保健共濟事業實施上、産業組合の行ふ保健運動の參考ともなる處であるから、各節に保健共濟事業の實施手續を解き、最後に農村保健問題中央委員會に於て決定せる全國産業組合農村保健運動必行事項を加へて一般の農村保健運動の參考に資することゝした。

一、實施ノ順序

保健共濟施設ハ産業組合法ニ依ル利用組合ノ事業トシテ經營スルモノデアルカラ、之ヲ實施スルニ當ツテハ組合ノ定款ヲ要スル。定款ノ變更ハ組合ノ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經テ所要ノ書類ヲ整備シ、定款變更認可申請書ヲ北海道廳長官ニ提出シ、之ニ對スル認可ノ指令ヲ得テ始メテ効力ヲ生ズルノデアル。

乍併、定款ノ變更ヲ行フ以前ニ於テ事業實行上必要ナル計畫ヲ確立シテ置カナカツタナラバ、總會ノ決議ヲ得ルコトモ定款變更ノ認可ヲ得ルコトモ困難デアルシ、計畫ヲ確立スル爲メニハ周到ナル調査研究ヲ必要トスルコトモ勿論デアル從ツテ本事業ヲ實施セムトスル場合ニ必要ナル事項ヲ列記スレバ左ノ如クデアツテ、以下項ヲ分ツテ之ヲ解說例示スルコト、スルガ、計畫ハ當然各町村ノ實情ニ即シタモノデナクテハナラヌカラ、本書ヲ參考トシ各組合ニ於テ夫々適切ナル措置ヲ講ゼラレタイ。

1. 基本調査
   - イ、調査機構及調査方式ノ決定
   - ロ、調査ノ實施（被保險者數、醫療費ノ最高最低及平均額）
2. 事業計畫ノ決定
   - イ、給付ノ範圍及方法
   - ロ、保險料ノ金額及分賦方法
   - ハ、保險料以外ノ財源
   - ニ、收支豫算ノ作成
3. 諸規程ノ制定
   - イ、定款變更條文作成
   - ロ、保健共濟規程ノ作成
4. 醫療機關トノ豫約
5. 總會又ハ總代會ノ決議
   - イ、事業計畫
   - ロ、定款變更
   - ハ、規程制定
6. 定款變更認可申請
7. 醫療機關トノ契約
8. 給付ノ開始

1. 定款變更

産業組合保健共濟施設實施定款例（定款抄本）

第一條　本組合ハ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス

一、……

二、……

三、……

四、……

五、……

六、組合員ヲシテ產業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

第二條　本組合ハ保證責任何々信用販賣購買利用組合ト稱ス

第五節　利　用

第七十五條　本組合ニ於テ設備スルモノ左ノ如シ

一、……

二、……

三、……

四、……

五、保健共濟施設

（新條文）

第七十九條ノ二　保健共濟事業ハ前四條ノ規程ニ拘ラズ保健共濟規程ノ定ムルトコロニ依リ之ヲ行ヒ特別會計トス

前項ノ規程ハ總會ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第五章　剩餘金處分並損失塡補及分擔

第八十一條　剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ特別積立金、保健共濟施設繰入金事業ノ分量ニ對スル配當金、役員賞與金又ハ繰越金ト爲スモノトス

注意

一、未ダ利用事業ノ規程ナキ組合ニアリテハ第一條並ニ第二條ノ變更ヲ爲スト共ニ第四章、第五節ニ利用事業ニ關スル規程ヲ設クルコト

2.　定款變更申請添付書類

定款變更認可申請書ニ添付スベキ書類左ノ如シ

イ、定款變更認可申請書　記載例省略

ロ、同理由書　同

ハ、定款變更ニ關スル（總會總代會）ノ決議錄ノ寫　同　後記記載例參照

ニ、保健共濟規定　同

ホ、事業計畫書　同

ヘ、保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面　同

ト、事業及收支ノ狀況ニ關スル書類　同

チ、醫療ニ關スル施設ノ內容ヲ記載シタル書類　同

リ、昭和　年度收支豫算書　同

二、基本調査

後記調査樣式ニ依リ前三ケ年入院費、診療費、其ノ他ノ事項ニ付キ調査ヲ行ヒ、一ケ年平均ノ約六割ヲ保險料トシテ徵收計畫ヲ樹テルコト。

尙調査ノ實施ハ下記ヲ參考ニ實行サレタキモ、適確ナル基礎數字ヲ算出シ正確ヲ期スル爲メニハ後記醫療費ノ年額調ト比較スルト共ニ、別ニ醫師ノ所得概算等モ可能ナレバ參考トスル必要アリ。

1.　調査樣式

事業費非本調査表

調査　昭和　年　月　日

調査上注意スル事項

1. 本調査ヲ於テ三年分ヲ調査スルヲ要ス
2. 職業ノ區別ハ一般ニ使用スル用語ヲ記入スルコト
3. 家族員數ト同居者數ノ調査ヲ區別スルコト
4. 病名別醫療費ノ內訳ニ付テハ疾病員數ヲ記入スルコト
5. 診療費ノ內訳中特別診療費ハ診療費ニ含ム

住所

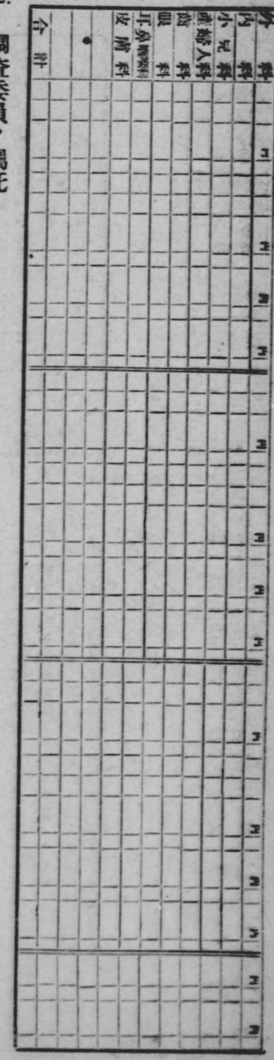
職業

氏名

區別 / 年別 / 性別	家族員數 15歲以上	15歲未滿	同居者數 15歲以上	15歲未滿
男				
女				
計				

病名別醫療費調査內訳

年度 / 診療費 / 科目	昭和十年度 入院 日數	入院 金額	診療費 日數	診療費 金額	家族費	小計	昭和十一年度 入院 日數	入院 金額	診療費 日數	診療費 金額	家族費	小計	三ケ年合計 一ケ年平均



2. **調査委員ノ嘱託**

調査ノ實施ニ當リテハ産青聯、農事實行組合幹部等ノ適任者中ヨリ調査戸數十數戸ニ一人位ノ調査員ヲ嘱託シ調査ニ對スル研究打合等ヲ行ヒ其ノ正確ヲ期スル必要アリ。

様式

嘱託狀

本組合醫療費調査委員ヲ嘱託ス

昭和十三年　月　日

氏名

責任

信用購買販賣利用組合

3. **調査打合會**

調査委員決定シタル後調査事項タル入院費、診療費、特別處置費、往診料、看護費、移送料等ノ各項目ニ亘リ調査方針ヲ決定スルト共ニ他ノ細目ニ就テモ調査實施方法ヲ打合ノ上決定スルコト。

調査期間ハ一人十四、五戸擔當ニテ十日間位ガ適當ナリ。

4. **調査實績ト給付ノ基礎**

實施セントスル組合ハ前掲ノ順序ニ依リ基本調査ヲ行ヒ、其ノ實績ニ依リ醫療費或ハ助産、葬祭費ノ狀態ヲ知リ、之ニ對スル給付ノ範圍、程度、方法ヲ決定スルノデアル。今國民健康保險組合ノ議會提出資料及昭和十三年度北海道ニ於ケル普通國民健康保險組合實施豫定村ノ基本調査並ニ本道内類似組合ノ實際等ヲ參考トシテ給付ノ基礎ヲ例示スレバ下記ノ如クデアル。

三、給付

1. **診療費年額調ト療養給付基礎額**

種別	種別	一世帶當平均醫療費	一人當平均醫療費	調査者	摘要
醫師居住町村			四、一〇	衛生局	農村保健衛生實地調査成績
醫師無キ町村		—	三、六〇		大正十年乃至大正十三年間ニ於テ二十三ケ町村ニ付調査
平均		—	三、九二		
農村居住者	小作農	一八、三三	二、九〇	農林省	農村經濟調査原案ニ據ル
	自小作農	二四、七七	三、九三		自昭和六年五月
	自作農	二〇、二三	四、七七		至昭和九年四月
	平均	二四、三六	三、八六		四ケ年間一府縣六戸乃至九戸ニ付調査
	農村	最低 八、六八 最高 二〇、一三	最低 一、六三 最高 三、三九	國民健康保險會	國民健康保險類似組合ノ成績
				局	昭和十一年度
俸給生活者	官吏	三九、一四三	一〇、一三	内閣統計局	家計調査
	教員	四四、六三	一三、四二		（自昭和六年九月至昭和十一年八月五ケ年平均）
	銀行會社員	四一、七三	一一、〇三		

	平均	四、三二	一〇、七七		
北海道農村	奈井江	二七、八三	四、六四	支會	昭和十二年六月ヨリ十三年五月ノ一ヶ年
	沼田	三三、八〇	四、〇〇	普通國保組合實施ノ調査	戸数七〇〇戸　一戸六人（組合設置ノ病院利用高ヨリ推算ス）
	喜茂別	三〇、三五	四、〇九	〃	一世帯當リ　五、七人
	新篠津	二七、三五	四、五九	〃	六人
	北村	二六、一〇	四、三五	〃	六人
	平均	二六、九二	四、三三	〃	六人トシテ計算

醫療費一戸當全國平均八二〇圓乃至二五圓内外ニテ、一人當リ四圓乃至五圓ト推算セラルヽモ北海道ハ前表ノ如ク奈井江共濟會ノ實績及國民健康保險組合實施ノ基礎調査ニ依レバ、一戸當リ二六圓九一錢、一人當リ四圓五二錢トナルヲ以テ被保險者一人當リ四圓五〇錢トシテ之ヲ療養給付ノ基礎數字トナサントス。

2. 療養給付ノ程度及方法　（戸數八四〇戸一戸六名被保險者五、〇四〇名）

一、診療費總額　一人四圓五〇錢　五、〇四〇名ノ　二二、六八〇圓

内保險給付額　總額ノ六割　一三、六〇八圓ノ割……一人當リ二圓七〇錢ノ割合

被保險者一人當リ年額二圓七〇錢ノ割合ヲ以テ特約セル醫療機關ヨリ組合員ニ現物給付ヲナスヲ原則トス。現物給付ナシ難キ場合ハ相當額ノ現金給付トスルコト。療養費總額ニ對スル給付ノ割合ハ保險料徴收方法、組合員ノ負擔力及本施設ノ組合員ニ對スル理解徹底ノ程度等各種ノ事情ヲ考慮シ決定スルコトヲ要ス。

少キニ失スレバ本制度ノ恩惠少ク、多額ナレバ保險料醵出ニ困難ナルベキヲ以テ平均六割程度ノ療養給付ヲナスヲ適當ト認メラル。

3. 助産費給付基礎額

調査種別	人口千人ニ對スル出生率	調査者	世帯人員及出生者	附記

昭和十年國勢調査	三一、六	内務省
昭和四年ヨリ昭和八年三ヶ年平均調査	三六、五	道廳
奈井江共濟組合	三四、〇	支會

助産費ノ給付ヲ爲ス場合ニハ助産一件ノ費用ヲ一〇圓ト見テ其ノ三割三圓ヲ給付スレバ被保險者一人當リ約一〇錢トナル。

4. 葬祭費給付基額

調査種別	人口千人ニ對スル死亡率	調査者	一戸當人員	人口千人ニ對スル死亡者	備考
昭和十年調査	一九、三	國勢調査	—	一九、三	
昭和四年ヨリ同八年ノ平均	一七、四	内務省北海道廳	五、五	一七、四	千人ニ付キ一七、四人一人　三〇圓

葬祭料ヲ給付セントスレバ千人ニ付キ一七、四人ノ死亡ニテ一件三〇圓ノ金額ヲ給付スルトシテ五二二圓一人當リ五二錢二厘トナルヲ以テ約五〇錢トナリ、内三割ヲ給付スレバ一人當リ一五錢ナリ。

註

療養給付ニ就テハ必要給付トスルモ、助産給付葬祭給付ハ組合ノ實情ニ依リ任意トシ本計畫ニハ之ヲ省ケリ。但シ助産葬祭ノ給付ヲ行ハントスル場合ハ助産ヲ先キトシテ、更ニ餘力アル場合ニ葬祭費ノ給付ヲ行フコト。

四、事業計畫

前記ノ調査實績及給付ノ基礎ニ基キ左記組合ノ事業計畫書記載例ヲ示セバ次ノ如クデアルガ、各産業組合ハ諸般ノ事情ヲ考慮シ適應スル計畫書ヲ樹立サレタイ。

イ、組合員數　八四〇戸

ロ、一世帶人員　六人

ハ、被保險者　五、〇四〇名　給付者數

何々組合保健共濟事業事業計畫書

一、組合區域內世帶數及人口（昭和　年　月　日現在）

區劃別	地區內世帶數	人口
宇何々	三〇	一八〇
宇何々	五〇	三〇〇
計	一〇〇〇戶	六〇〇〇人

二、組合員數及被保險者數

區劃別	地區內總世帶數	組合員數	被保險者數	摘要
宇何々	三〇	三〇	一八〇	
宇何々	五〇	四〇	二四〇	
計	一〇〇〇	八四〇	五〇四〇	

保險料等級別	產業組合員タル資格ヲ有スルモノ、數	組合員數	被保險者數	摘要
第一級該當者	四二	三〇	一八〇	
第二級該當者	一三五	一一二	六七三	
計	一〇〇〇	八四〇	五〇四〇	

備考　（一）組合未加入者ノ未加入理由
（二）將來加入ノ見込アル組合員數

三、當初三ケ年間ノ收支豫想

種別	初年度	第二年度	第三年度	摘記
收入 保險料	一二、八三〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	
收入 產業組合繰入金	二、四七六	二、三〇〇	二、三〇〇	
收入 寄附金	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
收入 積立金	—	三〇〇	六〇〇	組合員增加ニ依ル
收入 其ノ他	—	—	—	
收入 計	一四、三〇〇	一五、〇〇〇	一五、三〇〇	
支出 保險給付費	一二、六〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	
支出 保健奬勵費	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
支出 事務費	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
支出 準備金	一、九二〇	三〇〇	六〇〇	
支出 積立金	三八〇	三〇〇	三〇〇	
支出 其ノ他	—	—	—	
支出 計	一四、三〇〇	一五、〇〇〇	一五、三〇〇	

四、療養給付方法及一部負擔

イ、診療又ハ藥劑支給ハ何々組合病院並ニ同何々診療所何村何々醫師何々齒科醫師及藥劑師ヲシテ之ニ當ラシムル豫定トス

給付ニ關シテハ別ニ定ムル給付規程ニ依ル

ロ、一部負擔ノ割合ハ平均四割程度ニ定ムル豫定トス

（五、助產ノ給付方法

助產ハ何村及何々ノ產婆ヲシテ之ニ當ラシムル豫定トス）

（六、葬祭ノ給付方法
葬祭ハ何村及何々寺院何々ニ依囑シ執行セシムル豫定トス）
七、保健施設
豫防注射、健康診斷ヲ行フノ外衛生思想涵養ノ宣傳ニ努ムル豫定トス
八、組合役員表

役員名	氏名	備考
組合長理事	大川一郎	村長、農會長、漁業組合理事、實行組合長等町村及各種組合關係ノ職名ヲ記入ノコト以下同ジ
同理事	何某	
監事	何某	

2. 保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ノ例

何々組合保健共濟事業保險料算出ノ基礎

保險料

一、組合員一人ニ付　一ヶ月平均　一圓一七錢強　一ヶ年平均　一四圓〇八錢弱
（被保險者一人ニ付　同　一九錢五厘　同　二圓三五錢弱

二、組合員保險料負擔表

イ、基本保險料

（戸數割ニ依ル等級別保險料）

等級	標準（村平均戸數割ニ對スル割合）	戸數	一戸當月額保險料	一戸當年額保險料	保險料年總額
一	1/2未滿	二九	二錢	二四錢	六九六・〇〇
二	1/2同	一一三	三錢	三六錢	四〇六八・〇〇
三	1/2未滿	一八八	四錢	四八錢	九〇二四・〇〇
四	同	一八六	七錢	八四錢	一五六二四・〇〇
五	平均同	一七八	一圓〇五錢	一二六錢	二二四五六・〇〇
六	一、五倍同	一一二	一圓五〇錢	一八〇錢	二〇一六〇・〇〇
七	二倍同	一二	一圓七五錢	二一〇錢	二五二〇・〇〇
八	三倍同	一二	二圓〇五錢	二四六錢	二九五二・〇〇
九	四倍同	七	二圓二五錢	二七〇錢	一八九〇・〇〇
一〇	四倍以上	三	二圓五〇錢	三〇〇錢	九〇〇・〇〇
計		八四〇			一〇、一八〇・〇〇

ロ、割增保險料　（五人以上頭割增保險料）

世帶人員別	戸數	一戸當割增保險料 月額	一戸當割增保險料 年額	割增保險料年總額
六人世帶	一〇六	一錢二厘	一四錢	一四八・四〇
七人同	八三	二錢四厘	二八錢	二三二四・〇〇
八人同	五七	三錢六厘	四二錢	二三九四・〇〇
九人同	三四	四錢八厘	五六錢	一九〇四・〇〇
一〇人同	二〇	六錢	七二錢	一四四〇・〇〇
一一人乃至十五人	一九	七錢二厘	八四錢	一五九六・〇〇
一六人以上	二	一圓二錢	一四四錢	二八八・〇〇
計	三二一			八四〇人

八、算出ノ基礎
一、組合員數

二、被保險者數　五〇四〇人

三、被保險者一人ニ付
平均療養ノ給付　年額　二圓七〇錢

【人口千人ニ對スル分娩率　三五人】
【人口千人ニ對スル死亡率　一八人】

四、療養給付費用部負擔ノ割合　約四割

五、平均保險料算出ノ順序

療養給付費年額＝(被保險者1人當リ療養給付費年額)×(被保險者數)
11,824圓 ＝ 2.346錢×5040人

(助産給付費年額＝分娩一件當リ給付費額×分娩數)
(葬祭給付費年額＝死亡一件當リ給付費額×死亡數)
(療養給付費年額＝(療養給付費年額)＋助産給付費年額＋葬祭給付費年額)

註　括弧内ハ助産葬祭ヲ給付スル場合ニ記載ノコト

3. 事業及收支ノ狀況ニ關スル書類
産業組合ノ前三ケ年間ノ財産目錄、貸借對照表、事業報告書ヲ添付ノコト。

4. 醫療施ノ内容ヲ記載シタル書類
保健共濟事業ニテ醫療施設ヲ有スル場合
昭和十一年十一月二十八日一一更部第一六〇八號農林省經濟更生部長通牒ノ「醫療事業ニ關スル報告書」ノ樣式ニ倣ヒ作成スルコト但シ聯合會ノ醫療設備ニ依リ事業ヲ行フモノニアリテハ其ノ聯合會ノ事業報告書等ニ依リ内容ヲ記載ノコト
有セザル場合
何々醫療購買利用組合聯合會、何々村立診療所何々醫師ト別ニ定ムル診療契約ヲ行ヒ給付規程ニ依リ給付ヲナス。

5. 收支豫算ノ例
昭和　年度何々組合保健共濟事業收支豫算書
收入
一金壹萬四千五百圓也　收入豫算高
支出　支出豫算高
差引殘高
昭和　年度保健共濟事業收入支出豫算
收入之部

科目		豫算額	說明
款	項		
一、組合員負擔保險料	一、基本保險料	一〇、九四〇〇	戸數割額等級別保險料別表ノ通リ
	二、割增保險料	一、六三〇八	人頭割增保險料別表ノ通
二、繰入金	一、繰入金	二、四七二九	産業組合ヨリ繰入
三、寄附金	一、附金	一〇〇〇〇	
合計		一四、三〇〇〇	

支出之部

科目		豫算額	說明
款	項		
一、事務費	一、事務需要費	三〇〇〇	事務擔當者ノ手當及事務需要品費
二、事業費	一、診療給付費	一二、六〇〇〇	診療費總額　二二、六八〇圓ノ六割給付
	二、健康增進費	一〇〇〇	環防注射、健康診斷費（規約十五條）
三、準備金		一〇〇〇	

四、豫備費	一、準備金	一〇〇	準備金ニ繰入豫定（規約二八條）
	一、豫備費	三九一〇〇	
計		一四、五〇〇〇〇	

附記

1. 一部負擔ハ亂診亂療ヲ避クル爲少クトモ三割以上トスルコト
2. 人頭割增金ハ保險料ノ一割ヨリ二割程度トスルコト
3. 助產、葬祭料ヲ支給スル場合ハ前掲給付基礎額ニ依リ豫算ニ計上ノコト

五、產業組合保健共濟規程例

目次

第一章　被保險者
第二章　保險給付及保健施設
第三章　保險料
第四章　財務
第五章　雜則
何々組合保健共濟規程

第一章　被保險者及目的

第一條　本組合ハ組合員及其ノ世帶ニ屬スル者（組合員タル農事實行組合ノ組合員及其ノ世帶ニ屬スル者ヲ含ム）ヲ以テ被保險者トシ本規程ニ依リ保險給付ヲ行ヒ相互共濟ヲ爲スヲ以テ目的トス但シ左ニ掲グル者被保險者ヨリ之ヲ除外ス。

一、健康保險ノ被保險者

二、國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ他ノ法人ノ被保險者

三、私傷病ニ付キ療養ニ關スル給付ヲ爲ス官業共濟組合及警察共濟組合ノ組合員

四、何々

第二條　新ニ被保險者ト爲リタル者アルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名、男女別、生年月日及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ヅベシ　記載事項中變更アリタルトキ亦同ジ。

第三條　被保險者中其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名及資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ヅベシ。

第二章　保險給付及保健施設

第四條　本組合ニ於テ爲ス保險給付ノ種類左ノ如シ。

一、療養ノ給付
二、助產ノ給付（助產費ノ支給）
三、葬祭ノ給付（葬祭費ノ支給）
四、何々

第五條　療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一、診察（往診及處方箋ノ交付ヲ含ム）
二、藥劑又ハ治療材料ノ支給（診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ含マズ）
三、處置手術其ノ他ノ手當
四、入院
五、看護
六、被保險者ノ移送
七、何々

處置、手術其ノ他ノ手當ニ付テハ組合ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回拾圓（何圓）ヲ以テ限度

トス。

入院（看護及被保険者ノ移送）ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス。

第六條　前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保険者ハ當組合ト契約ヲナセル保證責任何々醫療利用組合聯合會何々病院村診療所醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得。

第七條　被保険者左ノ場合ニ於テ組合ノ指定セザル醫師、齒科醫師、其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス。

一、組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二、緊急ノ必要アルトキ

三、其ノ他必要ニ依リ組合ノ承認ヲ受ケタルトキ

第八條　療養費ノ額ハ療養ニ要シタル實費トス　但シ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヨリ第九條ノ規程ニ依ル一部負擔ノ額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ。

第九條　被保険者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルモノトス　但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ總會總代會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルベシ。

一部負擔金ハ左ノ割合ニ依リ理事之ヲ決定ス。

一、診療所要費總額（診察藥劑治療材料ノ支給費、入院費、（看護費、移送料）ノ四割以內

第十條　助産費額ハ何圓トス　但シ被保険者ハ組合ノ指定シタル產婆ノ中自己ノ選定シタルモノニ付キ助產ヲ受クルコトヲ要ス。

第十一條　葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス。

第十二條　本事業開始後被保険者トナリタル者ハ左ノ期間ヲ經過スルニ非ザレバ保険給付ヲ受クルコトヲ得ズ。但シ出生ニ因リ被保険者ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

一、療養ニ關スル給付ニ付テハ三十日（何日）

（二、助產及葬祭ニ關スル給付ニ付テハ九十日（何日））

第十三條　傳染病豫防法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ無償ニテ療養ヲ受クル場合ハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付ハ之ヲ爲サズ

第十四條　組合必要アリト認ムルトキハ保険給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトアルベシ。

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シテハ保険給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトアルベシ。

第十五條　本組合ハ被保険者ノ健康ヲ保持增進スル爲メ左ノ施設ヲ爲ス。

一、豫防注射

二、健康診斷

三、何　々

四、其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第十六條　本章ニ定ムルモノヽ外保健給付及保健施設ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム。

第三章　保　險　料

第十七條　組合員ハ每月左ノ等級ニ依ル保険料ヲ納付スルモノトス。

第一級　何　錢

第二級　何　錢

第　級　何　圓何　錢

被保険者數五人（何人）ヲ超ユル世帶ニ在リテハ其ノ一人（何人）ヲ增ス每ニ前項ノ額ニ何錢何級以下ハ何錢ヲ加算シタルモノヲ以テ保険料トス。

第十八條　各組合員ノ保険料ノ等級ハ資力ヲ標準トシ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム。其ノ等級ノ變更ニ付亦同ジ

第十九條　保険料ノ等級及額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組合員ニ通知スベシ。等級又ハ額ニ變更アリタルトキ亦同ジ。

第二十條　保険料ハ每年四月ヨリ六月迄ノ分ヲ四月末日迄ニ、七月ヨリ九月迄ノ分ヲ七月末日、十月ヨリ十二月迄ノ分ヲ

十月末日迄ニ之ヲ納付スベシ。

第　條　保險料ハ毎月末日迄ニ之ヲ納付スベシ。

第　條　保險料ハ米（大豆、何々）ヲ以テ納付スルコトヲ得。

換價其ノ他必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム。

第二十一條　納期限ヲ過ギ保險料ヲ納付セザル者アルトキハ理事ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ。

第二十二條　特別ノ事由アル者ニ付テハ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトアルベシ。

第二十三條　本章ニ定ムルモノヽ外保險料ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム。

第四章　財　務

第　條　本組合ノ保健共濟施設ニ關スル年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル。

第二十四條　保健共濟施設ニ要スル毎年度ノ經費ノ收支一切ハ之ヲ豫算ニ計上ス。

前項ノ豫算ニ於ケル收入ニハ第三章保險料及本組合ノ共濟施設ト同一目的ヲ以テ交付ヲ受ケタル奬勵金寄附金等ヲ之ニ計上スルノ外本組合ノ剩餘金ニシテ組合員ニ配當スベキ金額及特別積立金ノ一部ヲ計上スルコトヲ得。

第二十五條　豫算ハ豫メ總會ノ決議ヲ經ベシ。但シ前年度踏襲豫算ノ範圍ニ於テハ總會ノ決議前ニアリテモ本事業ヲ繼續スルコトヲ妨ゲズ。

前項ノ豫算ヲ追加及ハ更正セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ベシ。

第二十六條　理事ハ毎年五月末日迄ニ前年度ノ決算ヲ結了シ通常總會ノ認定ニ附スベシ。

第二十七條　豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ。

一、保險給付費

二、保健施設費

第二十八條　決算ニ剩餘ヲ生ジタルトキハ其ノ年度ノ事業費ノ百分ノ五以上ニ相當スル金額（殘餘ガ前年度事業費ノ百分ノ五ニ滿タザルトキハ其ノ全額）ヲ共濟準備金ニ積立テ殘額ヲ翌年度豫算ノ收入ニ組入ルヽモノトス。但シ共濟準備金

ガ其ノ年度ノ事業費豫算以上ニ達シタルトキハ積立ツルコトヲ要セズ。

第二十九條　共濟準備金ハ特別ノ事由ニ因リ事業費ニ不足ヲ生ジタル場合ノ外ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ。

第三十　條　本章ニ定ムルモノヽ外本事業ノ會計ニ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム。

第五章　雜　則

第三十一條　左ノ事項ハ常務理事ニ於テ之ヲ專決スルコトヲ得。

一、被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

二、保險給付ノ決定ニ關スル事項　但シ保險給付ノ不支給ノ決定ヲ除ク

三、收入及支出ノ決定ニ關スル事項

四、何　々

五、其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

第三十二條　本組合ニ於テ保健共濟事業ニ關シ公示スベキ事項ハ本組合ノ揭示場ニ揭示（何々ニ揭載）ス。

第三十三條　本組合ノ保健共濟事業ニ關スル帳簿及書類ノ保存ニ付テハ別ニ之ヲ定ム。

備　考

一、第　條……ト記載セルモノ　條項ニ括弧ヲ附セルモノハ組合ノ事情ニ依リ採否ノ自由ナルコト示シタルモノナリ。給付規程ニ就テモ同樣ニ取扱フコト

六、何々産業組合保健共濟事業給付規程例

第一條　組合ハ被保險者ニ對シ受診證樣式第一號ヲ交付ス。

第二條　被保險者診療ヲ受ケントスルトキハ組合ノ指定セル醫師又ハ齒科醫師ニ受診證ヲ提示スベシ。但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯無ク之ヲ提示スベシ。

第三條　被保險者指定醫ニ診療ヲ受ケタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ノ記載ヲ受クベシ。

第四條　被保險者組合ノ指定シタル藥劑師ニ就キ藥劑ノ支給ヲ受ケントスルトキハ指定醫ヨリ處方箋ノ交付ヲ受ケ之ヲ揃

定業劑師ニ提示スベシ。

第五條　被保險者一回ノ費用十圓ヲ超ユル處置手術若ハ其ノ他ノ治療ヲ受ケ又ハ病院ニ入院セントスルトキハ之ヲ組合ニ申請スベシ。（樣式第二號）但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク申請ヲ爲スベシ。

（第六條　被保險者療養ノ給付ヲ受ケタル場合ハ組合ヨリ其ノ給付ニ對スル一部負擔金ヲ告知ス。）

前項ノ告知アリタルトキハ遲滯ナク一部負擔金ヲ納付スベシ。

第六條　被保險者指定醫ノ診療又ハ指定藥劑師ヨリ藥劑ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ都度一部負擔金ヲ其ノ指定醫又ハ指定藥劑師ニ支拂ヒ領收書ヲ受クベシ。

已ムヲ得ザル事由ニ依リ指定醫又ハ指定藥劑師ニ支拂フコト能ハザリシ一部負擔金ハ之ヲ組合ニ納付スベシ。

第七條　療養費支給申請書（樣式第五號）ニハ療養ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添付スベシ。

組合療養ノ支給ヲ爲ストキハ受診證ヲ提示セシメ之ニ必要ナル事項ヲ記載スルモノトス。

第八條　被保險者助產ノ給付ヲ受ケントスルトキハ受診證ヲ組合ノ指定シタル產婆ニ提示スベシ、但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク之ヲ提示スベシ。

第九條　助產費支給申請書ニハ助產ニ要シタル費用額ニ關スル證憑書類ヲ添付スベシ。

第十條　被保險者死亡シタルトキハ葬祭ノ給付又ハ之ニ代ヘテ葬祭費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ組合ニ之ヲ申請スベシ。

前項ノ申請書ニハ受診證及死亡診斷書又ハ埋火葬認可證ノ寫ヲ添付スベシ。

註　括弧及第　條ハ事情ニ依リ取捨ス。

七、醫療機關トノ契約

醫療機關トノ診療契約ハ診療ノ範圍、方法一部負擔金ノ代理徵收、診療報酬費ノ決定支拂方法等ヲ含ミ重要ナル事項ニシテ就中料金ノ決定ハ經營及組合員ノ負擔ニ關係スル處大ナリ。

契約ノ方法ハ料金定額式及割引式アルモ今料金割引式ニ依ル醫師トノ契約例ヲ示セバ左ノ如シ。

イ、契約書例

何責任何々組合（以下甲ト稱ス）ノ行フ保健共濟事業ノ被保險者ノ診療ニ關シ甲ト何責任何々醫療購買利用組合聯合會（或ハ醫師何某）（以下乙ト稱ス）トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ。

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ノ疾病又ハ負傷ノ診療ヲ引受クルモノトス。

第二條　前條ニ依リ乙ノ引受クル診療ノ範圍左ノ如シ。

一、診療（往診、宅診及處方箋ノ交付ヲ含ム、但シ健康診斷ヲ含マズ）

二、藥劑又ハ治療材料ノ支給（治療材料中矯正眼鏡、ギブス、コルセット、體溫計、吸入器、氷枕、氷囊ノ類ヲ含マズ）

三、處置手術其ノ他治療（溫泉、鑛泉其ノ他轉地療養ヲ含マズ）

四、入院診療（寢具其ノ他ノ設備及賄ヲ含ム（又ハ含マズ））

乙ハ其ノ診療所ヨリ片道一里以內ノ往診ノ場合ニ在リテハ車馬賃ヲ請求セザルモノトス、但シ往診時間外又ハ被保險者ニ於テ特ニ時間ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ズ。

第三條　乙ハ本契約ニ依ル診療ニ關シ別ニ定ムル診療取扱方針ニ從フ外左ノ各號ニ揭グル事項ヲ尊守スルモノトス。

一、被保險者ヨリ診療ヲ求メラレタルトキハ受診證ヲ提示セシメ診療ヲ受クル資格アルコトヲ確メタル後診療ヲ爲スコト

二、被保險者ニ對シ診療ヲ爲シタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ返還スルコト

三、被保險者ヨリ處方箋ノ交付ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ザルコト。

四、診療上被保險者ヲ入院セシメ若ハ移送シ又ハ被保險者ニ看護婦ヲ附スル必要アリト認ムルトキ及一回ノ費用金拾圓（何圓）ヲ超ユル處置手術其ノ他ノ治療ヲ爲サントスルトキハ被保險者ニ助力シテ速ニ成規ノ手續ヲ爲サシムルコト

前項ノ移送又ハ看護ニ要シタル費用ニ付其ノ支拂ヲ受クベキ者ニ對シテハ必要ナル證明ヲ爲スコト。

五、被保險者ヨリ何々組合保險給付規程ノ規程ニ依リ保險給付ノ支給ヲ受クルニ必要ナル證明書又ハ意見書ノ交付ヲ求メラレタルトキハ無償ニテ直ニ之ヲ交付スルコト。

第四條　乙ハ甲ノ徵收スベキ一部負擔金ヲ診療ノ都度診療ヲ受ケタル被保險者ノ屬スル世帶ノ組合員ヨリ甲ニ代リテ收納

シ領収書ヲ交付スルモノトス。

前項ノ収納金ハ診療報酬ノ一部ニ充當ス

第五條　乙ハ其ノ月中ニ収納シタル一部負擔金及已ムヲ得ザル理由ニ因リ収納スルコト能ハザリシ一部負擔金ヲ診療報酬請求書ニ附記シ甲ニ報告スルモノトス。

前項ノ報告中已ムヲ得ザル事由ニ因リ収納スルコト能ハザリシ一部負擔金ニ付テハ甲之ヲ徴収スルモノトス。

第六條　乙ハ一部負擔金ノ収納ノ狀況ヲ明ニシタル帳簿ヲ備ヘ置クモノトス。

第七條　甲ガ本契約ニ依リ乙ニ對シ支拂フベキ毎月分ノ報酬額ハ何々郡（市）醫師會所定料金ノ何割引ニ依リ毎月之ノ請求ニ係ル額トス。

料金表中ニ料金ノ定メナキ診療ヲ爲サントスル場合ハ乙ハ甲ト其ノ都度協議シテ之ヲ定ムルモノトス。

第八條　乙ハ毎月別ニ定ムル診療報酬請求書ニ必要事項ヲ記入シ翌月十五日（何日）迄ニ甲ニ提出スルモノトス。

甲ハ前項ノ診療報酬請求書ノ送付ヲ受ケ報酬ノ計算ヲ了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ支拂フモノトス。

第九條　乙ハ本契約ニ依ル診療ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十年（何年）間保存スルモノトス、但シ甲ニ於テ保存期間ニ付別ニ承認シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ。

第十條　本契約ノ有効期間ハ昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄トス、但シ有効期間滿了何月前迄ニ何レカ一方ヨリ何等ノ意志表示ヲ爲サヾルトキハ本契約ハ更ニ一年間引續キ其ノ効力ヲ有スルモノトス、滿期ノトキニ於テモ亦同ジ

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ雙方連名調印ノ上各一通ヲ所持スルモノナリ。

昭和　年　月　日

何責任何々信用購買販賣組合　組合長理事　何　某　印

何責任何々醫療購買利用組合聯合會　組合長理事　何　某　印

（若クハ醫師　何　某　印）

No.

昭和　年　月分診療報酬請求書

信用購買販賣利用組合御中

昭和　年　月　日

診療所所在地

指定醫　印

| 被保険者 | 保険証番号 | | 住所 | | |

六、「傷病名」ハ必ズ邦字ニテ明記スルコト

七、傷病二以上ニシテ其ノ診療日ノ重複セル場合ニ必ズ之ガ重複日數ヲ記入スルコト

八、「當月診療日數」ハ其ノ月ニ於テ現實ニ診療ヲ爲シタル日數ヲ計上スルコト

九、「診療事項」ノ記入上特ニ注意スベキコト左ノ如シ

(イ)「往診」ハ片道ノ里程ト回數トヲ記入スルコト、同一家屋ニ二人以上ノ被保險者アル場合ニ記入スルコト

(ロ)「藥劑」ハ水藥何日分點眼藥何劑等ノ如ク記入スルコト

(ハ)「手術」及「處置」ハ其ノ種別及回數

(ニ) 注射ハ其ノ藥名用量又ハ號數並ニ皮下筋肉内及靜脈内ノ別

(ホ) 檢査ノ如キハ其ノ種別及回數ヲ處置欄又ハ手術欄ノ餘白ニ記入スルコト

一〇、一部負擔金ハ左ノ如ク記入スルコト

(イ)「總額」ハ診療ノ都度計算シタル金額ノ其ノ月分ノ合計額ヲ記入スルコト

(ロ)「收納濟額」ハ其ノ月ニ於テ現實ニ收納シタル金額ヲ記入スルコト

(ハ)「未收納額」ハ(イ)金額ヨリ(ロ)ノ金額ヲ控除シタル金額ヲ記入スルコト

本表ノ點數記入ハ總テ日本醫師會健康保險診療點數計算規程ニ依リ之ヲ明記スルコト

ロ、診療取扱方針

（昭和一三、七、一三日保險院社會保險局長通牒）

診療ハ保健共濟事業規程ニ依ルノ外本方針ニ從ヒ之ヲ爲スベキモノトス。

診療ハ妥當適正ナルモノタルベク且組合員ノ健康保持增進上最モ適切ナルモノタルコトヲ要スルモノトス。

診療ハ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認メラル程度ノモノニ對シテノミ之ヲ爲スモノトス。

診療ニ際シテハ療養上必要ナル事項ハ之ヲ被保險者ニ了解シ易キ樣詳細ニ說示スベキモノトス。

一、一般診療取扱指針

第一　往　診

緊急ノ場合及重症ノ患者ニシテ必要アリト認ムル場合並ニ患部ノ關係上必要アリト認ムル場合ハ往診ヲ爲スコト。

第二　投　藥

イ、內科的疾患ニ對スル投藥ハ慢性タルト急性病タルトニ拘ラズ治療上數劑ヲ投與スル必要アリト認メラルヽ場合ハ數劑ヲ投與シ一劑ヲ以テ足ル場合ニ數劑ヲ投與セザルコト。

ロ、外用藥ノ投與ハ必要アリト認ムル場合ノ外一病一劑トスルコト。

第三　注　射

イ、注射ハ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト。

ロ、「サルバルサン」ノ如キ砒素劑ノ注射ハ特別ノ事由ナキ限リ普通一週一回ヲ標準トシテ之ヲ行フコト。

第四　手術及處置

イ、手術ハ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ爲スコト。

ロ、外科的處置又ハ繃帶交換ハ必要ノ程度ニ之ヲ爲スコト。

ハ、小外傷ハ通常ノ場合ニ於テハ外用藥ノ投與又ハ單ニ患部處置ノミヲ爲スコト。

ニ、洗眼及尿道洗滌ハ普通一日一回ノ標準トスルコト。

第五　理學的療法

理學的療法ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト。

第六　特殊療法

新藥、新製劑、特殊藥

特殊療法又ハ新藥新製劑若ハ特殊藥ノ使用ハ醫學上一般ニ其ノ價値ヲ認メラレザル限リ之ヲ爲サヾルコト。

二、齒科診療取扱指針

第一　投　藥

イ、投藥ハ必要アル場合ノ外之ヲ爲サヾルコト。

ロ、含嗽藥及卷法藥ハ特別ノ場合ノ外一日分二百瓦ヲ標準トシ一回ニ二日分ヲ超ヘテ投與セザルコト。

ハ、拔齒後ノ場合ニ於ケル含嗽藥及卷法藥ノ投與ハ特別ノ場合ノ外四百瓦ヲ限度トスルコト。

第二　注　射

拔齒ノ際以外ノ注射ハ特ニ必要ナリト認ムル場合ノ外之ヲ爲サヾルコト。

第三　手術及處置

手術處置若ハ繃帶交換ハ必要ノ程度ニ止ムルコト。

第四　治療充塡

イ、治療日數ハ成ルベク短縮スル樣之ヲ爲スコト。

ロ、齒冠回復又ハ保存ノ見込ナキ齒牙ニ對シテハ充塡ヲ爲サヾルコト。

第五　特殊療法

醫學上一般ニ其ノ價値ヲ認メラレザル新藥（注射藥ヲ含ム）ノ使用其ノ他ノ特殊療法ハ之ヲ行ハザルコト。

第六　補綴

補綴及補綴ノ修理ハ齒牙ノ喪失又ハ齒冠ノ破壞ニ因リ咀嚼能率ガ低下シタリト認メラルヽ場合之ヲ行フコト。

八、事業ノ開始

定款變更ノ許可アリ醫療機關トノ契約成リ事業計畫ニ基ク保險料ノ徵收開始ト共ニ給付モ開始スル事業年度ハ保健共濟事業規程ニ從ヒ特別ノ場合ノ外四月一日ニ開始シ給付ニ就テハ前揭給付規程ニ依リ行フ。

附錄

事務樣式

樣式第一號　受診證

何第何號

組合員	何	某
住所		

續柄	
氏名	

表

生年月日	年　月　日
資格取得年月日	昭和　年　月　日

注意事項

一、コノ札ハ醫師ヤ齒科醫師ヤ產婆ニ受診スルコトガ出來ル證デスカラ大切ニ持ツテ居ナケレバナリマセン。

二、受診スルトキハコノ札ヲ醫師ヤ齒科醫師ヤ產婆ニ見セナケレバナリマセン。

三、同一傷病ニツイテ百八十日マデ受診出來マス。

四、被保險者デナクナツタモノハコノ札ヲ直グ組合ニ返シテ下サイ。

五、コノ札ヲ亡失シタリ記載欄ガナクナツタラ組合ヘ屆ケ再交付ヲ受ケナサイ。

（昭和　年　月　日交付）

裏

（注意）本組合ノ療養ノ給付期間ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日迄トス。

給付記錄

傷病名	開始日	認印	終了日	事由	認印	備考

様式第二號

入院一回ノ費用十圓ヲ超ユル處置（手術）入院承認申請書

受診證番號		傷病名	發病又ハ負傷年月日
醫師ノ意見	初診年月日		
	入院所要日數		處置手術ノ種類
	入院又ハ處置手術ニ要スル理由		
	年　月　日　診療所所在地　醫師　氏　名　印	費用見積額	入院料　處置料　手術料　計　円

右申請候也

昭和　年　月　日

何々産業組合長　殿

被保險者　住所

氏　名　印

様式第三號

看護又ハ移送承認申請書

受診證番號		傷病名	發病又ハ負傷年月日
醫師ノ意見	看護ヲ要スル日數		
	移送區間		
	移送方法		
	移送年月日		
	年　月　日　診療所所在地　醫師　氏　名　印	費用見積額	看護又ハ移送ヲ要スル理由

右申請候也

昭和　年　月　日

何々産業組合長　殿

被保險者　住所

氏　名　印

様式第四號

指定外醫師歯科醫師産婆承認申請書

受診證番號			發病年月日
傷病名			分娩豫定年月日
醫師歯科醫師産婆住所氏名			
理由			

右申請候也

昭和　年　月　日

何々産業組合長　殿

様式第五號

療養費（助産）支給申請書

受診證番號		傷病名	
手當ノ內容（分娩）經過		發病又ハ負傷（分娩）月日	
困難ナリシ理由、承認濟ナラバ其ノ旨			
手當ヲ受ケタル期間			
手當ニ要シタル費用			
醫師歯科醫師産婆住所氏名			

右申請候也

昭和　年　月　日

被保險者　住所

氏　名　印

何々組合長　殿

様式第五號ノ二

葬祭費給付申請書

被保險者氏名		受診證番號	
死亡年月日		葬祭ノ給付	
死亡ノ原因		葬祭費ノ別	
		葬儀執行年月日	
		申請人トノ續柄	

申請者
住所氏名　何　某　㊞

三二

右申請候也

昭和　年　月　日

何々組合長　殿

様式第六號

組合員名簿

番號	氏名	生年月日	住所	加入年月日	被保險者數	保險料 等級	月額	變更年月日	摘要

療養ノ給付

傷病名	給付期間 開始日	給付期間 終了日	日數 計	日數 内	事由終了	備考
	年 月 日	年 月 日	月分 日數	課		

給付ノ種類 | 支給年月日 | 支給額 | 備考

給付ノ種類	支給年月日	支給額	備考

被保險者臺帳

被保險者氏名		男女別		組合員ノ柄ト續柄	
生年月	年 月生	住所			
組合員番號	資格取得		資格喪失		
	年 月 日	事由	年 月 日	事由	
	年 月 日		年 月 日		

療養ノ給付

傷病名	給付期間 開始日	給付期間 終了日	日數 計	日數 内	事由終了	備考
	年 月 日	年 月 日	月分 日數	課		

様式第八號

準備金臺帳

年月日	摘要	増減額	現在高 現金	有價證券	計	備考
		円	円	円	円	

様式第九號

機械器具臺帳

番號	品名	數量	價格	取得年月日	喪失年月日	備考
			円			

様式第一〇號

豫算差引簿

年月日	摘要	豫算額	收入(支出)額	豫算殘高
		円	円	円

様式第一一號

一時借入金及準備金繰替使用帳

年月日	摘要	借入額	返還額	未返還額
		円	円	円

様式第一一號

保險料徴收簿

番號		組合員氏名		等級	
月別	調定濟額	徴收金額	摘要		
四月分					
五月分					

2. 全國産業組合農村保健運動必行事項

産業組合に依る農村保健運動を左の三段階に分ち全國町村産業組合は各々

2. 全國産業組合農村保健運動必行事項

産業組合に依る農村保健運動を左の三段階に分ち全國町村産業組合は各々其現勢に基き左の適合せる段階を選擇實行するものとする。

	第一段階	第二段階	第三段階
衛生及思想普及施設	一、パンフレット、リーフレットの配布 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、「家の光」の普及	一、パンフレット、リーフレットの配付 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、「家の光」の普及 四、講習會講演會の開催	一、パンフレット、リーフレットの配布 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、映畫に依る宣傳 四、「家の光」の全戶普及 五、講習會、講演會の開催 六、衛生展覽會の開催
體位向上施設	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 三、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 三、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養指導の實施 三、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 四、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給
衛生施設		一、住宅改善 イ、臺所の改善 ロ、便所の改善 二、飲料水の改善 三、肥料溜の改善	一、住宅改善 イ、臺所の改善 ロ、便所の改善 二、飲料水の改善 三、下水道溝汚水溜の改善 四、肥料溜の改善 五、被服、寢具、住宅等の消毒
豫防施設	一、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 二、口腔衛生の徹底 齒磨齒刷子の配給	一、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 二、口腔衛生の徹底 齒磨、齒刷子の配給	一、トラコーマの撲滅 二、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 三、口腔衛生の徹底 齒磨、齒刷子の配給
醫療施設	一、保健貯金の實施 二、家庭藥の配給 三、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付	一、保健積立金の實施 二、保健貯金の實施 三、保健貸付金の實施 四、出張診療所の開設 無醫村の解消 五、醫療利用事業の擴充强化 聯合會の設立加入又は改組 六、家庭藥の配給 イ、家庭藥の全戶配給 ロ、家庭藥補充組織の確立 （專任職員の設置） 七、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付	一、保健共濟施設の實施 國民健康保健事業の代行 二、保健積立金の實施 三、保健貯金の實施 四、保健貸付金の實施 五、出張診療所の開設 無醫村の解消 六、醫療利用事業の擴充强化 イ、診療所の開設 ロ、聯合會の設立、加入又は改組 八、既設醫療設備の擴充强化 二、救療施設の整備 無料診療、輕費診療 七、保健婦の設置 八、助産婦の設置 九、家庭藥の配給 イ、家庭藥の全戶配給 ロ、家庭藥補充組織の確立 （專任職員の設置） 十、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付 十一、健康相談の實施
母性及	一、姙産婦の保護 分娩具、衛生用品、榮養劑 榮養食料品の配給	一、姙産婦の保護 イ、健康相談の實施 ロ、分娩具、衛生用品、榮養劑、榮養食料品の配給 二、乳幼兒の保護	一、姙産婦の保護 イ、健康相談の實施 ロ、分娩具、衛生用品、榮養劑、榮養食料品の配給 八、助産の實施 二、乳幼兒の保護

其現勢に基き左の適合せる段階を選擇實行するものとする。

	第一段階	第二段階	第三段階
衛生及思想普及施設	一、パンフレット、リーフレットの配布 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、「家の光」の普及 四、講習會講演會の開催	一、パンフレット、リーフレットの配布 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、映畫に依る宣傳 四、「家の光」の全戸普及 五、講習會、講演會の開催 六、衛生展覽會の開催	一、パンフレット、リーフレットの配布 二、ポスター、傳單の貼付並配布 三、「家の光」の普及 四、講習會講演會の開催
體位向上施設	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 三、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 三、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給	一、被服の改善 標準被服の配給 二、榮養食料品の配給 イ、榮養知識の普及徹底 ロ、榮養食料品の時期別品目別配給 三、農繁期共同炊事の實施 イ、部落別共同炊事の實施 ロ、必要なる物資の配給
衛生施設	一、住宅改善 イ、臺所の改善 ロ、便所の改善 二、飲料水の改善 三、肥料溜の改善	一、住宅改善 イ、臺所の改善 ロ、便所の改善 二、飲料水の改善 三、下水道溝汚水溜の改善 四、肥料溜の改善 五、被服、寢具、住宅等の消毒	一、住宅改善 イ、臺所の改善 ロ、便所の改善 二、飲料水の改善 三、肥料溜の改善
豫防施設	一、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 二、口腔衛生の徹底 齒磨齒刷子の配給	一、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 二、口腔衛生の徹底 齒磨、齒刷子の配給	一、寄生虫の驅除 驅虫劑の配給 二、口腔衛生の徹底 齒磨、齒刷子の配給
醫療施設	一、保健貯金の實施 二、保健積立金の實施 三、保健貯金の實施 四、出張診療所の開設 無醫村の解消 五、醫療利用事業の擴充强化 聯合會の設立加入又は改組 六、家庭藥の配給 イ、家庭藥の全戸配給 ロ、家庭藥補充組織の確立 (專任職員の設置) 七、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付	一、保健共濟施設の實施 國民健康保健事業の代行 二、保健積立金の實施 三、保健貯金の實施 四、保健貸付金の實施 五、出張診療所の開設 無醫村の解消 六、醫療利用事業の擴充强化 イ、診療所の開設 ロ、聯合會の設立、加入又は改組 ハ、既設醫療設備の擴充强化 二、救療施設の整備 無料診療、輕費診療 七、保健婦の設置 八、助產婦の設置 九、家庭藥の配給 イ、家庭藥の全戸配給 ロ、家庭藥補充組織の確立 (專任職員の設置) 十、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付 十一、健康相談の實施	一、保健積立金の實施 二、保健貯金の實施 三、保健貸付金の實施 四、出張診療所の開設 無醫村の解消 五、醫療利用事業の擴充强化 イ、診療所の開設 ロ、聯合會の設立、加入又は改組 ハ、既設醫療設備の擴充强化 二、救療施設の整備 無料診療、輕費診療 六、家庭藥の配給 イ、家庭藥の全戸配給 ロ、家庭藥補充組織の確立 (專任職員の設置) 七、衛生用品、分娩具、簡易なる醫療機具の配給並給付
母性及兒童保護施設	一、妊産婦の保護 分娩具、衛生用品、榮養劑 榮養食料品の配給 二、就學兒童の保護 榮養食、榮養劑の支給	一、妊産婦の保護 イ、健康相談の實施 ロ、分娩具、衛生用品、榮養劑、榮養食料品の配給 二、乳幼兒の保護 イ、農繁期托兒所の開設 ロ、榮養食料品、榮養劑の配給 三、就學兒童の保護 イ、就學兒童保護施設との積極的連繫 ロ、榮養食、榮養劑の支給 ハ、標準小學生服の配給	一、妊産婦の保護 イ、健康相談の實施 ロ、分娩具、衛生用品、榮養劑、榮養食料品の配給 ハ、助產の實施 二、乳幼兒の保護 イ、健康相談、巡回指導の實施 ロ、農繁期托兒所の開設 ハ、榮養食料品、榮養劑の配給 三、就學兒童の保護 イ、就學兒童保護施設との積極的連繫 ロ、榮養食、榮養劑の支給 ハ、標準小學生服の配給 ニ、清淨運動訓練の實施 ホ、療養保護の實施
軍事援護施設	一、生活援護 二、無料又は輕費診療の實施 三、無料又は輕費助產の實施 四、家庭藥の給與 五、慰問弔慰	一、生活援護 二、無料又は輕費診療の實施 三、無料又は輕費助產の實施 四、家庭藥の給與 五、慰問弔慰	一、生活援護 二、無料又は輕費診療の實施 三、無料又は輕費助產の實施 四、家庭藥の給與 五、慰問弔慰

農村保健問題中央委員會

391
80

昭和十三年十二月五日印刷納本
昭和十三年十二月七日發　行　（非賣品）

編輯兼發行人　札幌市外圓山南四條三丁目　森　正　男

印刷者　札幌市北一條西六丁目　金　丸　正　信

印刷所　札幌市北一條西六丁目　文　昭　堂　印　刷　所

發行所　札幌市北四條西一丁目一番地　産業組合中央會北海道支會
電話　五、三〇〇（北聯交換）
振替口座小樽八四〇九番